



Annual Report 2022

2022年度 事業報告書

Fairtrade Label Japan

認定NPO法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン







フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) とは

地球環境と開発途上国の生産者・子ども達の生活を守る「フェアトレード」の仕組みを運営するNGOです。

Fairtrade International(国際フェアトレードラベル機構)の日本組織として、フェアトレードの認証・ライセンスや普及啓発活動を行っています。また国際フェアトレード基準に基づく認証を行う日本で唯一の機関です。

私たちは生産者や企業が「経済・社会・環境」の3つの観点の基準を守って生産・取引していることを監査・確認しています。これらの基準を満たす商品には「国際フェアトレード認証ラベル」をつけられ、消費者の皆さんはフェアトレード商品を安心して選ぶことが出来ます。私たちはこのグローバルの仕組みを運営し、市民・学生・企業の皆さんと一緒に上げていく活動を行っています。

国際フェアトレード認証とは

日常でコーヒーやチョコレート、バナナやコットンなどを手軽に買うことができる代わりに、実はその原料が生産される開発途上国では、貧困や児童労働、環境破壊などの問題が起きている場合があります。

フェアトレードとは、人権や環境に配慮して生産された製品を適正な価格で取引することで、「寄付や援助」の枠を超えビジネスの構造を変えて社会課題を解決していく活動です。

国際フェアトレード認証は、フェアトレードであることを示す第三者認証で、世界的に最も認知されているサステナビリティ認証の1つです。現在世界145カ国でフェアトレード認証商品が流通しています。

フェアトレード製品を購入することは、環境や開発途上国の生産者・子ども達に配慮した生産を促進し、さらに美味しくて品質の良いものの持続可能な生産にも繋がります。



認定NPO法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン

理事 堀木一男 前田京子 樽本哲 高橋周一 大井祥平 南真由美 羽生田慶介 松原稔
監事 沢田寛子 井上晃良
事務局 潮崎真惟子 中島佳織 等々力恵理 浜崎薫 北戸香那 戸嶋アルダンジュ悦子
インターン Y.S T.S U.M S.Y M.K
(2023年5月時点)



2023年11月にフェアトレード・ラベル・ジャパンは設立30周年となります。
30年前の世界には、共通のフェアトレード認証ラベルは存在せず、国ごとに異なるマークを使いながら、独自に小さな団体がフェアトレードに取り組んでいました。
30年の時が経ち、今やFairtrade Internationalとして世界中の拠点が繋がり、多くの企業・団体との連携が進み、フェアトレードは世界で1兆円をゆうに超える市場に成長しました。国を超え、言語を超えて、フェアトレードのマークを見たらそれが未来を守るものだと分かる人たちが世界中に増えました。
その中で生まれてきた生産者の笑顔、子どもたちの笑顔、多くのステークホルダーの笑顔は数知れません。
この長い道程を信じてきてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。



(C) Ranita Roy

今やフェアトレードを最もよく知っているのは、子ども達や若者世代です。彼女・彼らは学校で習ったフェアトレードの可能性に目を輝かせ、フェアトレードを広げたいという声を日本中から届けてくれています。

私たちには、こうした希望とともに、焦りもあります。昨今の世界的なインフレの影響を受け、途上国の生産者たちも肥料などの価格が上がり生産コストが大きく上がっています。それでも世界では農産品の買い取り価格が低いままとなることも少なくありません。気候変動による災害や熱波の被害も受け、生産者からは「このままでは生産を続けられない」という切実な声が届いています。こうした小さな声を世界に届けることが「フェアネス」を実現するために必要だと痛感します。

フェアトレードのような価格基準の重要性も、これまで以上に高まっています。私たちはより速度を上げて、全力で取り組んでいきたいと思えます。

これまで、そしてこれからもフェアトレードの大きな可能性と一緒に信じてくださる皆さまに、心より感謝と敬意を込めて。

認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン
事務局長 潮崎真惟子



フェアトレードプレミアムによって
新しく自分のビジネスに投資できて
カカオの生産高が低下した時でも
ほかの収入を得ることが
できるようになりました



(C) Mohamed Aly Diabate



カカオ生産者のSankara Azéta氏は
女性リーダーシップスクールの卒業生で、
コートジボワールのECAMOMメンバーです。
フェアトレードプレミアムの資金サポートにより
生地や化粧品の販売店を経営しています。

Impact Stories



Fabio Rafael Pagero(ドミニカ共和国のバナナ生産者)

(C)Christian Nusch

私はバナナの小さな農園の生産者ですが、フェアトレードのおかげでやっていくことができます。フェアトレードがなければ、私たちは大きな農園に太刀打ちできません。フェアトレードによってバナナを高い価格で販売でき、従業員にはより良い賃金を支払うことができます。また、取引価格が固定され、後から引き下げられないのは安心で、私たちにとってとても重要なことです。

私はフェアトレードの協同組合バネリーノのおかげで、この農場を買うことができました。家も、トラックも、農家としての生活も、すべてフェアトレードのおかげです。バネリーノのメンバーになるまでは、生きていくのもやっとの貧しい農民でした。今は私も家族も必要なものをすべて手に入れることができ、とても感謝しています。

特に重要な支援は、子どもたちへの奨学金です。おかげで子どもたちは勉強ができます。長男は農業を学び、長女は教師になるつもりです。子どもたちの成績はとてもよく、それが私の誇りです!



Agnes Chebii (ケニアの花農園の生産者)

私はカレン・ローズ社で1998年から現在まで20年以上働いています。私は4児の母で、会社での仕事と、母として妻としての責任をすべて担っています。会社がフェアトレードの認証を受けたことで、様々な問題がなくなり、私の人生は本当に豊かになりました。フェアトレードの教育クレジットのおかげで子どもたちは学校へ行くことができ、息子は今、メディアやジャーナリズム、マスコミュニケーションといった仕事に就くことができます。

そして私はジェンダー委員会の会長になりました。カレン・ローズ社では今、男女共同参画がしっかりと機能しています。フェアトレードになる前は、家庭での暴力、職場での暴力、罵詈雑言、セクシャル・ハラスメントなどがありました。フェアトレードの労働や人権の基準によって会社は大きく変わりました。女性のエンパワメントは社内から始まり、社会へと広がりました。今では女性は男性と対等の権利と責任を持ち、男性にできることが同等にできるようになりました。



KOUASSI Affoué Angèle (コートジボワールのカカオ生産者)

私はカカオの生産者になって12年になります。カカオ生産者になる前は専業主婦で、夫の農園を手伝っていましたが、今は自分の農園を持っています。カカオは重要な収入源ですが、実際には売れない時期もあるため、カカオの収入だけで生活することは難しいです。フェアトレードは収入をひとつの柱に頼るのではなく多様化することを推奨し、そのためのサポートしてくれます。

私はフェアトレードに感謝しています。女性の権利や、目的を達成するためにグループをマネジメントする優れたリーダーとしてのあり方、結束力を維持する方法、農園の多様化などについても学びました。また、交渉の仕方についても教わりました。私たち女性は夫とどのように話せばいいのかわからず、それが喧嘩の原因になることがあるからです。

私には5人の子供がいます。5年後には、家族の世話と社会の支援ができる、自立した女性になりたいです。フェアトレードを知ってから、私は自信が付き、幸せで、光栄に思っています。

国内活動状況のサマリーと展望

活動状況のサマリー

2021年度に構築した新事務局体制のもと、組織基盤や戦略の強化を図り、さまざまなステークホルダーとの協働・連携を発展させることができました。また、情報発信力強化により、新たな分野・企業などからサポートを獲得し活動の幅を広げることができました。その結果、さらなるフェアトレードの普及拡大と市場拡大へとつなげることができました。

1. ライセンス事業

セミナーや分科会などによる組織間連携の促進や個別企業へのアプローチ、営業ツール提供、販促支援等を通じて、認証製品の販路拡大や認証取得組織数の増加に繋げることができました。

2. 認証事業

ライセンス事業との分離や、近年の認証事業者数の増加に伴う監査体制の強化などに取り組み、認証事業の客観性・透明性をさらに大きく強化することができました。

3. 普及啓発・アドボカシー事業

全国規模で開催したフェアトレード月間キャンペーンをはじめ、前年度以上に広報活動を強化し、フェアトレードの認知拡大に繋げることができました。また、人権課題への取組みが急務とされる産品などに特化して、関連業界への問題提起などにも取り組みました。

今後の展望

サステナビリティへの取組みに加え、今後、産業界全体で「ビジネスと人権」への対応が急速に進んでいくことが見込まれます。教育界でもこれまで以上にSDGs教育が浸透しており、今後ますますエシカル消費の拡大が見込まれています。気候変動の影響も受けて開発途上国における農業生産に多くの困難が発生しており、フェアトレードが果たす役割はますます重要となっています。今後も社会的影響力のある大手企業の巻き込みを戦略的に取り組んでいくとともに、消費者の意識を変え、政策などにもフェアトレードが組み入れられていくよう、取組みを強化して参ります。

[写真] インドのコットン農園で働く女性



フェアトレードのインパクト



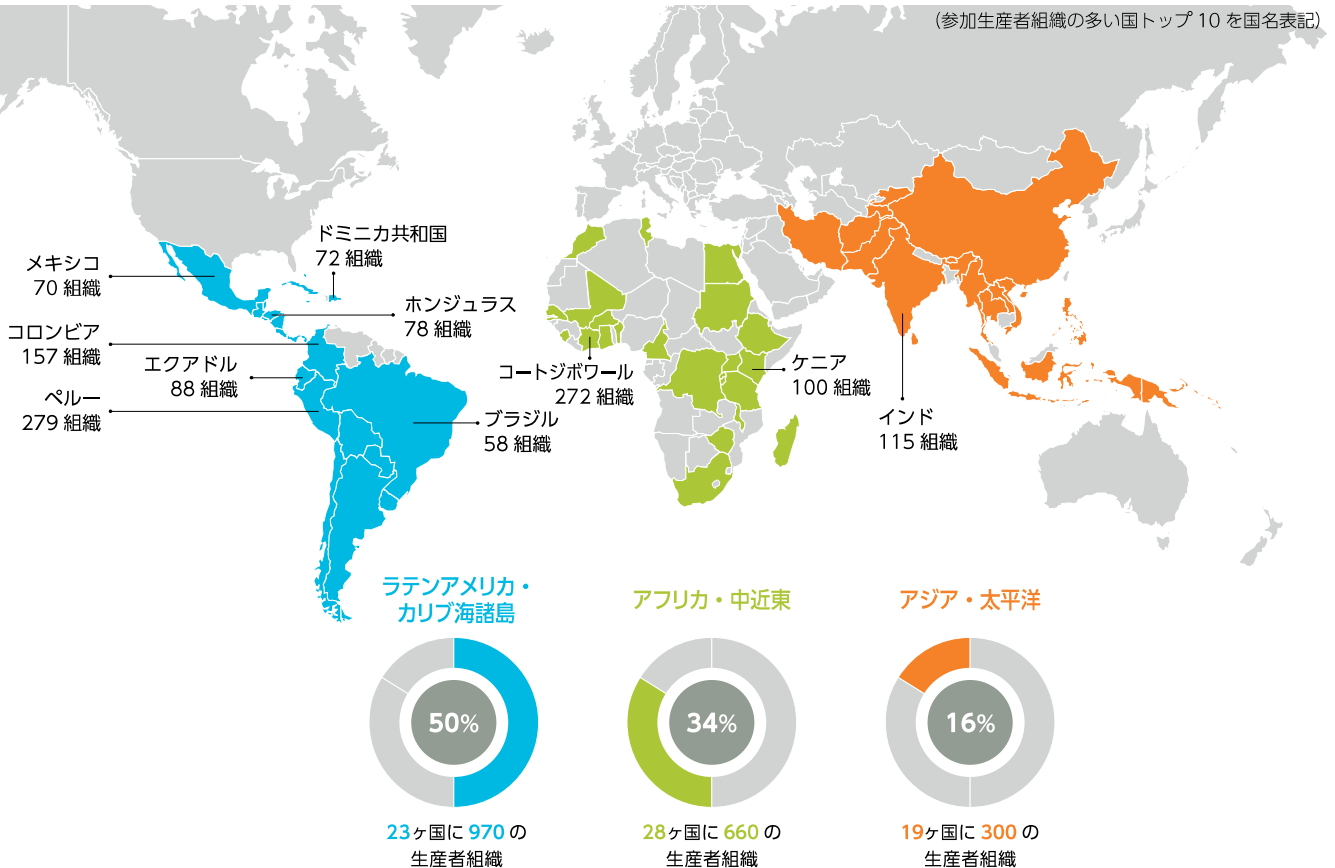
More than
2 Million
Farmers & Workers
世界 200 万人以上の
生産者・労働者が参加



1,930 fairtrade certified
producer organizations in
70 Countries
世界 70 か国の
1,930 の生産者組織が参加

フェアトレード参加生産者組織の分布 (2021年)

(参加生産者組織の多い国トップ 10 を国名表記)



2021年フェアトレードプレミアム総額と使途



Fairtrade Premium
€201.6 Million

フェアトレード プレミアムの総額は
261.8 億円

労働者雇用組織^{※1}は、
フェアトレードプレミアムを
教育、医療、住宅および金融サービスに

68%を投資



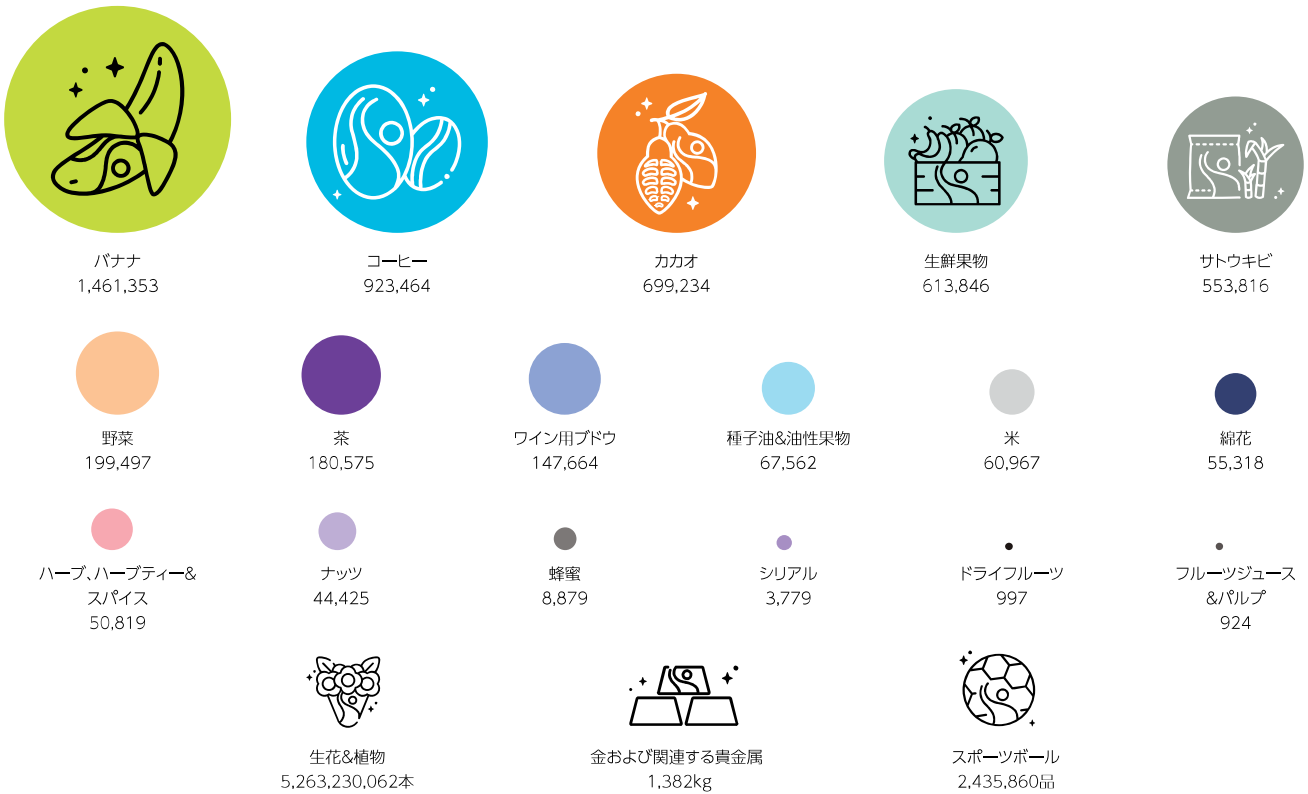
※1…紅茶やバナナ等のプランテーション

小規模生産者組合^{※2}は、
フェアトレードプレミアムを
農業投資などの農家向けサービスに

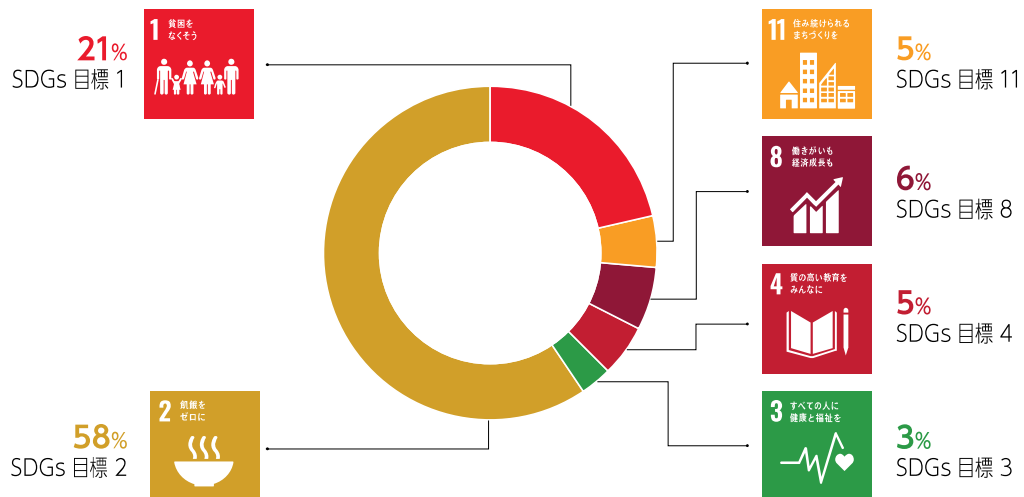
32%を投資

※2…コーヒーやカカオ等の小規模農家の集まり

2021年フェアトレード認証産品生産量(単位:トン*別単位使用箇所以外)



フェアトレードプレミアムの使途:国連の持続可能な開発目標 (SDGs) カテゴリーによる分類



フェアトレードプレミアムの使途をSDGsのゴールで分類すると、大きな割合を占めるのは目標2「飢餓をゼロに」です。これに含まれるのは、小規模農家のために生産者組合がプレミアムで購入した農業機器、肥料、倉庫施設、および組合活動強化資金として使用した活動などです。国連の目標2の定義(小規模農家の農業生産性の向上や所得向上支援を含む)に基づいています。その他にも、目標1「貧困をなくそう」や目標4「質の高い教育をみんなに」、目標8「働きがいも経済成長も」などの達成に寄与する活動にもフェアトレードプレミアムが多く使われています。

※数字は四捨五入されている為、合計は100%になっていません。
 ※本グラフはフェアトレードプレミアムの使途を、SDGs(国連の持続可能な開発目標)における17の目標で分類したものです。
 詳細: www.fairtrade.net/impact/fairtrade-premium-spending-by-sdg

〈 市場データ1 〉 国内市場規模

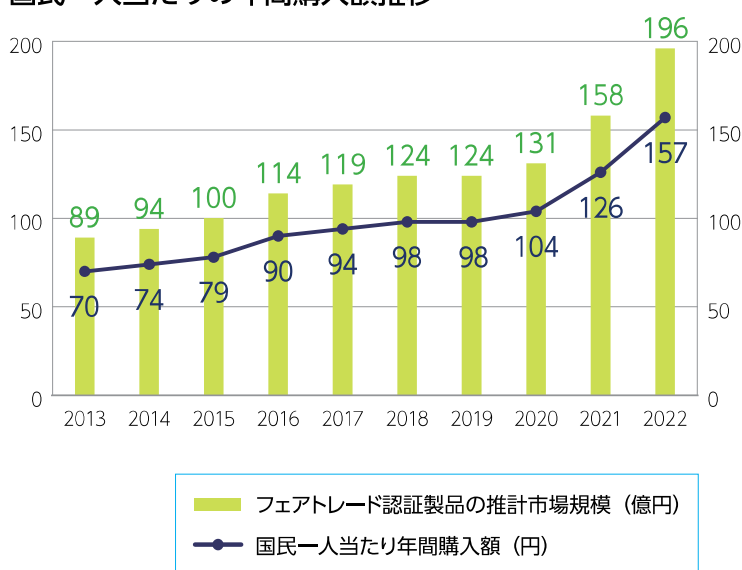


Retail Sales (Japan)
19.6 Billion yen
 フェアトレード市場規模
 196 億円



Participants (Japan)
252 organizations
 フェアトレード認証参加組
 織数 252 件

フェアトレード認証製品推計市場規模と
 国民一人当たりの年間購入額推移



■ 概況

2022年のフェアトレード認証製品の推計市場規模は前年比+24%の195.6億円で、過去10年で最大の伸び率となり、前年比38億円増と推計史上最大の拡大幅を記録しました。主要製品のコーヒーで、カフェなどの業務用と小売用の商品が共に売上拡大したほか(前年比122%)、ノベルティとしてのフェアトレードコットン雑貨の活用も拡大しました(前年比199%)。また紅茶やバナナ、チョコレートも販売店舗や商品が拡大し好調な伸びを記録しました(紅茶は前年比236%、バナナは前年比142%、カカオは前年比110%)。背景には、SDGsの認知拡大により、消費者にとって日常生活で気軽に参加できるフェアトレード商品へのニーズが拡大していることが挙げられます。

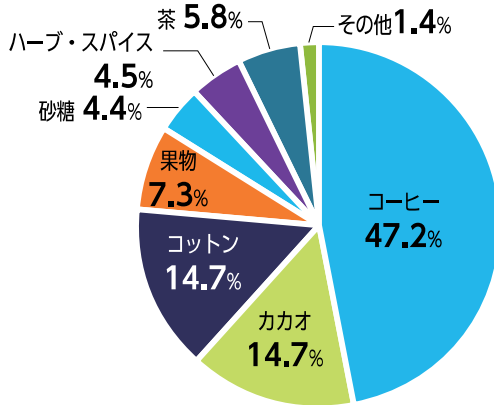
■ 直近のフェアトレード市場規模と認証参加組織の推移

	2020 年度	2021 年度	2022 年度
市場規模 (千円)	13,130,349	15,777,611	19,563,323
市場規模 前年比	105.80%	120.20%	124.00%
認証参加組織数※	221	243	252
認証参加組織数 前年比	101.80%	110.00%	103.70%

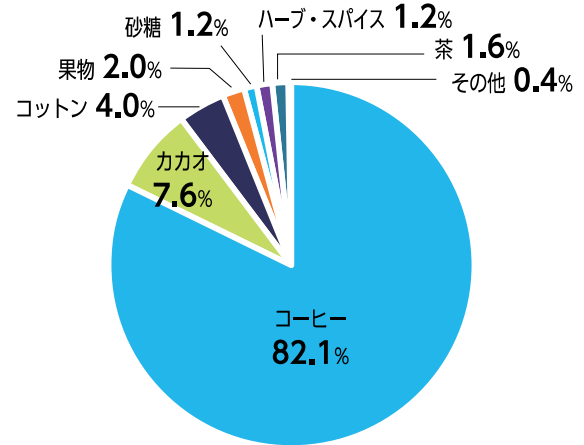
※ FLJ 認証組織 (輸入、製造、卸、ライセンス)、FLOCERT 認証組織、製造受託組織、海外完成品輸入組織を含む

〈市場データ2〉 本年度のライセンス料及び市場規模の製品別割合

ライセンス料に占める各製品の割合



市場規模に占める各製品の割合
(外食産業を加味)

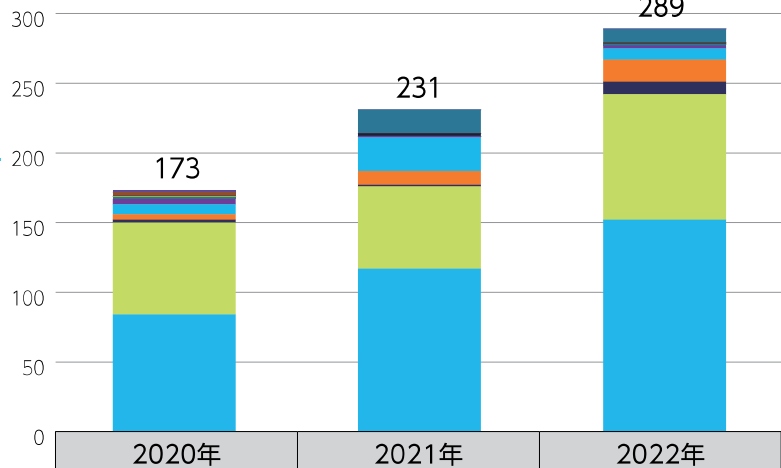


※左図はライセンス料に占める各製品の割合であり、FLJ収入源の各製品への依存度を示し、
右図は外食産業での提供価格を加味した実際の国内消費金額の内訳であり市場規模を示します。

〈市場データ3〉 新規認証製品 承認数

■右図は日本において新規に承認された認証製品数を表します。実際には海外で承認された製品も含めより多くの製品が日本市場に流通しています。
[参考] Product Finderへの掲載製品数:1,684点
(2023年5月時点)

新規認証製品 承認数



	2020年	2021年	2022年
蜂蜜	1		
茶		17	10
化粧品類	3		
バナナ		2	1
スポーツボール	1		
ドライフルーツ	1		1
オイルシード・油脂果実	4	1	2
ココア	7	24	8
砂糖	4	10	16
スパイス・ハーブ,ハーブティ	2	1	9
コーヒー	66	59	90
繊維	84	117	152

活動報告（1. ライセンス事業）

1 営業・マーケティング活動

■ 大手企業との連携・新規提案

より多くの企業にフェアトレードに取り組んでいただくための提案活動を行っています。コーヒー、カカオ、コットンなどの主要産品においては、商社やメーカーとも連携して、新規提案にも積極的に取り組みました。その結果、新規認証取得事業者数の増加、新規発売製品数の増加など、市場拡大に繋げることができました。

また消費者によるフェアトレード認証製品の購買を促進していくため、スーパーなど小売店舗でのPOP掲示やフェアトレードの訴求などにおいて、大手小売企業との連携や提案に力を入れて取り組んでいます。大手小売各社でのフェアトレード商品開発や認証製品の取扱い拡充、店頭訴求の事例を増やすことができました。



■ 認証製品の販売促進・営業サポート

フェアトレード認証製品の販路拡大に繋げるため、認証事業者への各種サポートを行いました。新規営業提案の際に使えるフェアトレード説明プレゼン資料やフェアトレード訴求のための素材提供のほか、FLJのSNSアカウントで各社の認証製品や取り組みの紹介などを行いました。また、フェアトレード認証製品の販売促進に繋げる施策として、5月のフェアトレード月間には、前年度に続き、全国横断の大型キャンペーン「ミリオンアクションキャンペーン」を実施しました。

FLJとしては、引き続き下記のような各種販促支援や連携を展開していきます。

- ・大型キャンペーンの実施（5月ミリオンアクションキャンペーン）
- ・営業ツール提供支援（フェアトレード提案プレゼン資料提供、素材パーツ提供）
- ・SNS投稿希望申請制度の導入
- ・社内勉強会の実施
- ・企業間連携のコーディネート

■ 企業間ネットワーキング・分科会

フェアトレード認証事業者が一堂に会し、情報交換・ネットワーキングの場として毎年開催しているステークホルダー会合に加え、よりマーケティングに特化した学びや連携促進を目指し、マーケティング分科会をスタートさせ、合計で3回の分科会を開催しました。定期的集まりを通じて、参加企業間の新たなビジネス連携も生まれました。今後は、より具体的な連携や施策の創出に繋がるようなマーケティング支援を展開していく予定です。

2 認証ラベルの商標管理

国際フェアトレード認証ラベル（国際登録番号：0806431）は、Fairtrade Internationalに（FI）によって管理されている国際登録商標です。FLJは、FIからその専用使用权を付与されている日本における唯一の法人として、FIおよびFI加盟組織と協力し、認証ラベルの信頼と認知の向上のため、適正利用のための管理徹底に努めています。

- ・認証事業者からの製品認証申請・パッケージ表示の審査
- ・認証事業者、メディア、行政、市民団体などからの認証ラベル使用許可申請の審査
- ・FIによる各種ライセンス規程への対応（FIからの監査対応、越境販売製品管理等）

活動報告（2. 認証事業） — ①

1 監査

FLJとライセンス契約・国際フェアトレード認証契約を締結しているライセンシー、輸入・製造・卸事業者、計90社の監査対象事業者のうち、2022年度監査計画に従って50件の監査を実施しました。

2020年度、2021年度の2年間は新型コロナウイルスの感染状況を考慮し実地監査をリモート監査に変更しましたが、2022年度より認証・監査規定に基づき実地監査を再開しました。非通知監査は実施が困難との判断により今年度も中止しました。

ここ数年認証事業者各社は、全体的にフェアトレード基準をよく理解し、適切に取引・管理していることを確認しています。しかしながら前年度のリモート・書類監査では製造委託組織の管理、監督が行き届いていないケースが目立ったため、2022年度は実地にて製造委託組織の監査を行うことに重点を置きました。認証事業者は、委託をする前に製造委託組織にフェアトレードの意義や、要件についてしっかりと説明し、継続的に管理・監督をする責任があります。



〈 監査実施件数 〉

	2020年度	2021年度	2022年度
初回監査	8	14	9
更新監査	7	16	20
中間監査 ^(※1)	6	9	21
非通知監査	0	0	0
合計	21	39	50

(※1) 中間監査には、実地で行う場合と書類で行う場合とがあります。

〈 監査結果 〉

	2020年度	2021年度	2022年度
監査1件あたりの不適合項目数 平均値	1.05	0.92	1.14
不適合項目が確認されなかった事業者の割合	38%	56%	48%

監査1件あたりの不適合項目数平均値が増加した要因は以下の通りです。

- ・委託製造先で、認証事業者による要求事項の指導や管理監督が十分でなかったことによる不適合が複数指摘された。
- ・認証ラベルの使用申請をしないで、認証ラベルをウェブサイトや販促物に使用したケースが複数確認された。

〈 監査判定結果 〉

	2020年度	2021年度	2022年度
認証一時停止 ^(※2)	0	1	1
認証取得・更新・継続 ^(※3)	20	36	47

(※2) 日常業務で発見された不適合の改善が期限までにされなかった場合の判定も含まれます。

(※3) 2022年度監査対象事業者50社の内、3件は不適合項目の是正中のため計上していません。2022年度監査対象事業者以外の認証事業者は数に含まれていません。

活動報告（2. 認証事業） — ②

2 認証事業の適性運用と強化

■ 内部監査(ISO17065適合監査 2023年1月18日実施)

監査から認証判定までの一連の業務が、適切に滞りなく行われていることが確認されました。2021年度から継続して認証業務とライセンス業務との分離、認証一時停止・認証取消事業者の公開 (<https://www.fairtrade-jp.org/license/authentication.php>)、例外的な対応を最小限にするための規定類の改定などに取り組み、認証制度の透明性をさらに高めるための対応を進めています。

■ 監査体制の強化

近年の認証事業者数の増加に伴い、引き続き監査人を増員することを計画しています。

また、2023年度ー2024年度に予定されているフェアトレード・トレーダー基準の大幅改定に向け、追加される社会的要件、人権デューデリジェンス要件について適切な監査が迅速に実施できるよう、職員・監査人に対する研修を充実させていきます。



Photo: Ilkay Karakurt

活動報告（3. 普及啓発・アドボカシー事業） — ①

1 キャンペーン

フェアトレード月間である5月、150を超える企業・市民団体・自治体と連携し、FLJ主催による大型キャンペーン「ミリオンアクションキャンペーン」を企画開催しました。フェアトレード製品の購入やSNSでの情報発信、全国各地のイベント参加など、フェアトレードに関連するアクションをしてもらい、全国の皆様と1カ月間で150万アクションを目指すというキャンペーンです。

フェアトレードに馴染みの薄かった層にも働きかけるため、今年は①キャンペーンアンバサダーの起用②メディア向けキックオフイベントの開催と大きく2つの新たな取り組みを行いました。

6人のキャンペーンアンバサダーに就任いただき、FLJ主催イベントへの登壇や、アンバサダーご自身のSNSでの紹介など幅広く広報活動にご協力いただきました。またキャンペーン開始直前にメディア向けのキックオフイベントを開催し多くのメディアにご取材いただくことが出来ました。

また様々なメディアや活動を通して生産国の現状を伝えました。全国各地で様々な企業やフェアトレードタウン、店舗がフェアトレードに関する活動を進めてくださいました。

次年度も継続して、さらに多くの人たちに参加してもらえよう、取り組んで参ります。

〈キャンペーンメインビジュアル〉



キックオフイベントの様子



全国各地で様々な主体がイベントを開催



アンバサダーのみなさま



Hinano Yoshikawa
吉川ひなの
起業家 モデル タレント



Toshiaki Hirose
廣瀬俊明
元ラグビー日本代表キャプテン
Team Fair Playキャプテン



Rie Mochizuki
望月理恵
株式会社セント・フォース取締役
NPO法人ジャパンハートアドバイザーボード



Jun Hori
堀潤
ジャーナリスト・映画監督
NPO法人8bitNews代表



Rika Sueyoshi
末吉里花
一般社団法人エシカル協会代表理事
日本ユネスコ国内委員会広報大使



Alisa Evans
エバンス亜莉紗
エシカルコーディネーター

2 広報

■ メディア掲載・取材・執筆

昨年に引き続きSDGsへの社会的関心の高まりも受けて、テレビや新聞、WEBサイトなどのメディアに限らず企業や自治体、学校教育の場でもフェアトレードおよびフェアトレード認証ラベルの取材・掲載件数が増加しています。また、サステナビリティやCSRをテーマとしたビジネス情報誌『オルタナ』（年4回発行）のコラム欄とトピックス欄の執筆を2016年から継続してFLJで担当しています。フェアトレード関連の世界・国内最新動向や企業事例などを取り上げ、フェアトレードの広がりを発信しています。

〈取材・掲載件数〉

種類	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年比
新聞	10	11	18	18	100%
雑誌	25	22	27	17	63%
テレビ	4	14	20	8	40%
ラジオ	2	1	3	2	67%
書籍	7	19	28	30	107%
教材	11	64	47	46	98%
webサイト	12	31	73	132	181%
動画	—	10	12	8	67%
リーフレット	38	35	42	49	117%
ポスター	—	8	13	19	146%
その他	32	48	77	84	109%
合計	141	263	360	413	115%

■ FRaU SDGs AWARDノミネート

国際フェアトレード認証ラベルが「FRaU SDGs AWARD」にてノミネートされました。FRaU SDGs AWARDとは、女性誌として日本で初めて一冊丸ごとSDGsを扱った号を刊行し、サステナビリティに関する情報発信を牽引しているFRaUが紹介してきた人・団体・自治体の取り組みのなかで、特に高く評価するアクションを取り上げ、その意義を伝えるアワードです。



フェアトレード認証ラベル
フェアトレードジャパン（事務局長 潮崎真佳子）
掲載媒体：FRaU8月号

■ Fairtrade Brand Listページの公開

フェアトレード・ジャパンホームページ内に、国内で購入することのできるフェアトレード認証商品を紹介する、Fairtrade Brand Listのページを新たに作成しました。产品ごとに一覧で紹介しているため、よりわかりやすくご覧いただけます。今後も随時更新してきます（登録は企業からの申請制）。



〈Fairtrade Brand List ページ〉

■ 登壇やイベント参加

JBpress/JDIR主催「第2回 サステナビリティ&ダイバーシティ経営フォーラム」や松屋銀座主催「Beautiful Mind」など、20以上の講演会への登壇やイベントに参加しました。

3 教育支援

■ 講演・教材提供などでの協力

SDGs教育の広がりやメディアでの発信増加なども影響し、フェアトレードへの認知・関心が確実に高まっています。特に中高生や大学生からの問い合わせが増加しています。

教育機関からの授業依頼やセミナー・シンポジウムでの講演依頼への対応を行いつつ、よくある質問への答えをウェブサイトに掲載したり、無償提供の教材をアップデートするなどして、より多くの教育機関や個人にフェアトレードの情報をお届けできるよう取り組んでいます。



〈 教育・啓発関連協力件数 〉

	授業・講演	教材無償提供(*)	展示物貸出・ 教材販売
小学校	—	8	—
中学校	3	7	—
高校	6	10	2
大学	6	7	4
公的機関	—	2	—
自治体	1	3	—
企業・市民団体ほか	17	48	7
合計	33	85	13

(*) 教材無償提供数は、ウェブサイトからの教材ダウンロード申請数です。

都度申請が不要のため、前年度以前に申請済みの組織によるリピート利用数は上記数値には含まれていません。

■ 大学と企業との産学連携支援

フェアトレード認証事業者と大学との産学連携の取り組みとして、フェアトレードの商品開発や販促活動、SNSを活用した情報発信などの協働事例が増えています。

フェアトレードを含むエシカル消費に最も高い関心を持つといわれるZ世代と協働することで、彼らの関心を商品開発や情報発信に生かすことができるとともに、学生たちにとっては、商品開発やマーケティングなど、実践しながらビジネスを学ぶことができるとして、産学連携は今後ますます注目されていくことが見込まれています。

FLJでは、フェアトレードの情報提供や組織間連携の橋渡しの面で、各種取り組みのサポートを進めています。2022年度は、青山学院大学、千葉商科大学、中央大学などと連携を行いました。



中央大学・経済学部「国際開発論」の公開授業で講演した際の様子

4 アドボカシー

■ 製品ごとのアドボカシー活動

フェアトレードでは対象製品ごとに業界の特徴も異なるため、FLJでは各業界の主要なイニシアティブに参加し問題提起とフェアトレードの訴求に取り組んでいます。

カカオについては、JICAの「開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム」にFLJとして積極参画しています。9月には、同プラットフォームとして発表した「児童労働の撤廃に向けたセクター別アクション」へFLJとしても賛同表明するなど、小規模カカオ農家への適正価格の支払やエンパワメントの重要性をカカオ関連企業に訴求しています。

またコットンについては、FLJを含む5つの団体が協働で設立した「日本サステナブル・コットン・イニシアティブ (JSCI)」に引き続き運営メンバーとして参画し、綿花生産や綿製品の製造過程における環境的・社会的課題への理解と取り組み促進を目指し、情報発信を行っています。

コーヒーについては、日本スペシャルティコーヒー協会 (SCAJ) のサスティナビリティ委員会の委員として新たに就任し、アジア最大の展示会SCAJでセミナーに登壇する等、業界へのアプローチを強化しました。

■ 行政との連携および提言活動

行政主導による消費者教育や啓発キャンペーン等への協力・連携を通じて、市民へのフェアトレード認知拡大を図るほか、2025年大阪万博における調達基準へのフェアトレード調達盛り込みへの働きかけや、農林水産省との意見交換なども進めました。

- ・5月キャンペーン後援協力(熊本市・名古屋市・逗子市・浜松市・札幌市・いなべ市)
- ・消費者庁：消費者教育ポータルサイトへの情報提供

[写真] ガーナのカカオ生産者組合 Asuadai Cocoa Farmers' Cooperative Society の農家メンバー



5 外部連携

■ 国内団体との連携・ネットワーク参加状況

理念を共有する組織・ネットワークとの連携を通じ、フェアトレードの普及推進を図るだけでなく、FLJ単独では成し遂げられない社会的インパクトを生み出し、持続可能な社会の実現をともに目指しています。具体的には、セミナー・イベント等の協働・連携を通じたターゲット業界や行政・市民への情報発信によって、新たなフェアトレード市場の広がりや、行政などの公共調達におけるフェアトレード調達促進などに繋がっています。

〈 連携団体・ネットワーク（抜粋） 〉

	連携団体名・ネットワーク名	ステイタス	FLJ参加時期
1	特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)	正会員	2008年度～
2	一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム(FTFJ)	正会員	2011年度～
3	一般社団法人日本エシカル推進協議会(JEI)	正会員・アドバイザー	2014年度～ (法人化2017年度)
4	グリーン購入ネットワーク(GPN)	正会員・理事	2018年度～
5	一般社団法人日本スペシャルティコーヒー協会(SCAJ) サスティナビリティ委員会	会員・委員	2019年度～会員 2022年12月～委員
6	一般社団法人日本サステイナブル・レストラン協会(SRA)	アドバイザーボード	2020年3月～
7	開発途上国における サステナブル・カカオ・プラットフォーム	会員	2020年3月～
8	一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会(JSL)	賛助会員	2020年度～
9	学校法人アジア学院	サポーター会員	2020年度～
10	日本サステナブル・コットン・イニシアティブ(JSCI)	設立・運営メンバー	2021年度～

■ フェアトレードタウン・フェアトレード大学

まちぐるみ・大学ぐるみでフェアトレードを推進する「フェアトレードタウン」「フェアトレード大学」の取り組みは、市民にとって身近な単位でフェアトレードに参加できる仕組みであり、フェアトレードを普及浸透させていく上で重要な役割を果たしています。FLJでは、イベント開催連携や情報提供、企業との橋渡しなど、地域の推進グループや教育機関・地方自治体との連携・協力を進めています。

■ Fairtrade International (FI)

FI加盟メンバーとして、グローバル方針・戦略立案の議論・決議への参加のほか、日本国内の事業者と生産者との橋渡し役を果たすため、FIメンバーの生産者ネットワーク組織との情報共有や連携を図っています。以下、主な参加会議。

- FI総会(6/23 @オンライン参加)
- FIメンバーCEO月次会議出席(毎月@オンライン)
- FIメンバーCEOフォーラム出席(年3回 @オンライン)



6 ファンドレイジング

2019年11月の継続サポーター申込制度の導入以降、毎月・毎年の継続サポーターが少しずつ増えてきています。過去との比較では寄付総額・寄付人数が減少してますが、これは2020年度・2021年度はコロナの感染拡大でダメージを受けた生産者救援のためのクラウドファンディングの実施や大型の法人寄付があったためです。継続寄付者の数は増え続けており、今後はファンドレイジングもさらに強化して参ります。

〈寄付金額・支援者数の推移〉

カテゴリ		2020年度	2021年度	2022年度
寄付総額		¥1,958,400	¥4,154,244	¥1,659,976
個人寄付金額		¥1,660,400	¥1,944,597	¥1,065,227
個人寄付者数	個人寄付者数	213	324	159
	都度寄付者数	163	229	55
	継続寄付者数	57	95	104
	内訳：月額500円サポーター	17	27	27
	月額1,000円サポーター	9	10	20
	月額3,000円サポーター	—	2	1
	月額10,000円サポーター	—	—	1
	年間3,000円サポーター	16	30	32
	年間5,000円サポーター	5	11	14
	年間10,000円サポーター	9	12	7
	年間30,000円サポーター	1	2	2
	年間50,000円サポーター	—	1	—
	法人寄付金額		¥298,000	¥2,209,647
法人寄付数		7	15	15

■メルマガ配信

寄付など様々な形でフェアトレード・ラベル・ジャパンを応援して下さるサポーターの方々やフェアトレードに関心をお持ちの方々向けに、2021年2月から配信をはじめました。

内容は多岐にわたり、イベント開催の告知やキャンペーンのご案内、フェアトレードの国内外の最新情報などをご提供しています。現在読者登録数は約1,800名です。

今後も、読者のみなさまに、フェアトレード・ラベル・ジャパンを応援いただけるよう、より内容の充実した情報をご提供していきます。



【配信済みメルマガの一例】

前年度から取り組んできた業務管理体制の強化や対外発信などの組織基盤強化により、フェアトレード市場拡大や外部からの人的・資金的支援の獲得なども広がり、事務局体制のさらなる強化と活動の充実化を図ることができました。

創立30周年を迎える次年度は、理事会・事務局の連携をさらに強化し、寄付など様々な形でFLJを支援して下さる企業や個人サポーターを増やしていけるよう、引き続きガバナンス強化や能力強化にも取り組み、皆さまから信頼していただける組織を作って参ります。

1. 組織体制 (2023年3月31日時点)

正 会 員：個人会員19、団体会員2
 役 員：理事8名、監事2名(平均在任期間約8年、男女比：男性7名・女性3名)
 事 務 局：常勤6名、学生インターン3名
 アドバイザー：14名

2. 総会／理事会

①通常総会開催

日時：2022年6月16日(木) 18:30～20:30
 場所：FLJ事務所(東京都中央区日本橋富沢町11-6)/ZOOMオンライン
 議題：議決事項 (第1号議案) 2021年度 事業報告書承認の件
 (第2号議案) 2021年度 決算報告書承認の件
 報告事項 2022年度事業計画・予算、理事選任

②理事会開催

- 第1回** 2022年6月3日(金) 書面決議
 議題：2021年度事業報告書・決算報告書の承認
- 第2回** 2023年1月13日(金) 18:30～20:30 @ZOOMオンライン
 議題：事務局体制、事業進捗・課題共有、2023年度キャンペーン方針
- 第3回** 2023年2月28日(火) 18:30-20:30 @ZOOMオンライン
 議題：2022年度収支見込、職員待遇改善、行動規範・内部規程類等
- 第4回** 2023年3月6日(月) 19:00-20:30 @FLJ事務所/ZOOMオンライン
 議題：活動報告、次年度事業方針案・予算案、次年度キャンペーン共有

2022年度 決算報告

貸借対照表				[税込] (単位:円)
資産の部		負債の部		2023年3月31日現在
科目	金額	科目	金額	
【流動資産】		【流動負債】		
(現金・預金)		未払金	13,070,901	
普通預金	32,354,914	前受金	3,608	
定期預金	6,200,000	預り金	511,305	
現金・預金計	38,554,914	仮受金	2,562,824	
(売上債権)		未払法人税等	70,000	
売掛金	6,205,246	未払消費税	1,579,000	
貸倒引当金	10,004	流動負債計	17,797,638	
売上債権計	△ 37,975	負債合計	17,797,638	
(棚卸資産)	6,177,275	正味財産の部		
在庫品		【正味財産】		
棚卸資産計	83,590	前期繰越正味財産額	25,828,732	
(その他流動資産)	83,590	当期正味財産増減額	2,083,344	
前払費用		正味財産計	27,912,076	
仮払金	155,633	正味財産合計	27,912,076	
その他流動資産計	155,633			
流動資産合計	44,971,412			
【固定資産】				
(有形固定資産)				
什器備品	2			
有形固定資産計	2			
(投資その他の資産)				
敷金	738,300			
投資その他の資産計	738,300			
固定資産合計	738,302			
資産合計	45,709,714	負債及び正味財産合計	45,709,714	

活動計算書				[税込] (単位:円)
				自2022年4月1日至2023年3月31日
【経常収益】				
【受取会費】	正会員受取会費		270,000	
【受取寄付金】	受取寄付金		1,659,976	
【事業収入】	ライセンス料	51,807,760		
	初回認証料	1,182,500		
	年間認証料	8,387,500		
	年間ライセンス認証料	1,480,445		
	業務委託料	110,000		
	講演料	1,262,774		
	商品売上	209,880		
	広報・販促物売上	55,300	64,496,159	
【その他収益】	受取利息	409		
	為替差益	896,487		
	協賛金(活動参加費)	3,102,000		
	雑収益	600,000	4,598,896	
	経常収益計			71,025,031
【経常費用】				
【事業費】				
(人件費)	人件費計	21,737,741		
(その他経費)	その他経費計	46,443,045		
	事業費計		68,180,786	
【管理費】				
(人件費)	人件費計	216,331		
(その他経費)	その他経費計	474,570		
	管理費計		690,901	
	経常費用計			68,871,687
	当期経常増減額			2,153,344
	税引前当期正味財産増減額			2,153,344
	法人税、住民税及び事業税			70,000
	当期正味財産増減額			2,083,344
	前期繰越正味財産額			25,828,732
	次期繰越正味財産額			27,912,076

活動報告・監査報告の詳細はウェブサイトからご覧いただけます。

フェアトレード認証取得事業者・ライセンス

コーヒー

味の素AGF株式会社
 イシガキコーポレーション
 一般社団法人トランシード・グループ
 小川珈琲株式会社
 オリジンコーヒートレーダーズジャパン株式会社
 片岡物産株式会社
 兼松株式会社
 株式会社アートコーヒー
 株式会社ウエシマコーヒー
 株式会社ガーデンパール&コーヒージャパン
 株式会社神戸珈琲
 株式会社コーヒー乃川島
 株式会社ダイオーズ ジャパン
 株式会社トーホー
 株式会社豆乃木
 株式会社ユニカフェ
 株式会社 ethicafe
 キーコーヒー株式会社
 キャピタル株式会社
 共栄製茶株式会社
 共栄フーズ株式会社
 齊藤コーヒー株式会社
 三本珈琲株式会社
 シーシーエスココーヒー株式会社
 スターバックス・トレーディング合同会社
 ダートコーヒー株式会社(金沢)
 ダートコーヒー株式会社(和歌山)
 日本ヒルスコーヒー株式会社
 ボルカフェ株式会社
 有限会社鳥取珈琲館
 有限会社ひぐち
 ワタル株式会社
 ワルツ株式会社
 ecke
 POPLIFE CO. ポップライフカンパニー
 UCC上島珈琲株式会社

カカオ

株式会社クラウン製菓
 株式会社立花商店
 日幸製菓株式会社
 株式会社フワイ
 株式会社モンロワール
 大東カカオ株式会社
 チョコレートデザイン株式会社
 バリーカレボージャパン株式会社
 ブルガリ・ジャパン株式会社
 森永製菓株式会社

茶

株式会社ノヴァ
 株式会社国太楼
 神戸紅茶株式会社
 ジャパン・ティー・トレーディング株式会社
 有限会社マカイバリジャパン

ゴマ

株式会社真誠
 九鬼産業株式会社

花

株式会社阪神トレーディング
 株式会社フラワーオークション ジャパン
 株式会社Asante

コットン

一広株式会社
 株式会社飯島産業
 株式会社スバストラジャパン
 株式会社丹後
 株式会社チチカカ
 株式会社トレードワークス
 株式会社フェアトレードコットンイニシアティブ
 株式会社福市
 株式会社ローカルメゾン
 株式会社FABRIC TOKYO
 株式会社TTL
 祇遠コットン
 倉敷紡績株式会社
 信友株式会社
 第一紡績株式会社
 垂内タオル株式会社
 帝人フロンティア株式会社
 東洋棉花株式会社
 豊島株式会社
 豊田通商株式会社
 豊通ファッションエクスプレス株式会社
 日の出毛織株式会社
 フェアトレードカンパニー株式会社
 福助株式会社
 ホットマン株式会社
 有限会社シサム工房
 TBユニファッション株式会社

サトウキビ

オークラ製菓株式会社

バナナ

ANAフーズ株式会社
 株式会社タナカバナナ
 株式会社ヒロインターナショナル
 株式会社マール

複数産品取り扱い企業

イオントップバリュ株式会社
 (カカオ、コーヒー、茶など)
 石光商事株式会社
 (コーヒー、茶)
 一般社団法人わかちあいプロジェクト
 (コーヒー、茶、カカオ、スパイス、蜂蜜、
 ナッツ、スポーツボールなど)
 伊藤忠商事株式会社
 (コーヒー、カカオ)
 伊藤忠食糧株式会社
 (カカオ、オイルシード)
 エスビー食品株式会社
 (スパイス、ハーブティー)
 株式会社キャメル珈琲
 (コーヒー、カカオ)
 株式会社デコラージュ
 (茶、スパイス)
 株式会社マックスドナ
 (カカオ、スパイス、ハーブティーなど)
 株式会社MCアグリアライアンス
 (コーヒー、カカオ)
 社会福祉法人めだかすとりいむ すいーつぱたけ
 (カカオ、サトウキビ)
 桜井食品株式会社
 (カカオ、スパイス、ハーブティー)
 住商フーズ株式会社
 (コーヒー、オイルシード)
 第一コーヒー株式会社
 (コーヒー、茶)
 東京食品産業株式会社
 (スパイス、ハーブティー)
 日本生活協同組合連合会
 (コーヒー、茶、コットン)
 有限会社中村植物園
 (茶、オイルシード・油脂果実)
 Amrita株式会社
 (茶、スパイス、ハーブティー)

謝辞／ご支援方法・事例

2022年度も多くのご寄付、活動のサポートを頂きましたことに、心より感謝申し上げます。

〈 支援企業・団体 〉

●寄付事例

- ・大学生開催フェアトレードカフェイベントの売上額のご寄付(千葉商科大学)
 - ・企業様が実施されているポイント制度でご寄付メニューを設立しご寄付
 - ・企業様設置のコーヒーマシン利用者様からの任意金額を全てご寄付 など
- ※ご寄付は、フェアトレードの普及啓発・アドボカシー活動に活用させていただいています。

●ご寄付をいただいた企業・団体の皆さま(五十音順)

- ・株式会社ドゥ・ハウス
 - ・株式会社Nakae
 - ・日本生活協同組合連合会
 - ・ロンラン株式会社
 - ・株式会社オルタナ
- ※5万円以上のご寄付をいただいた企業・団体を紹介



〈 プロボノ・現物寄付など 〉

●サポート事例

- ・プロジェクト推進のサポート
- ・企画ご提案
- ・会場のお貸出し
- ・SNS広告の出稿／運用 など

●サポートいただいた企業の皆さま(五十音順)

- ・株式会社イノベーションデザイン
- ・株式会社オウルズコンサルティンググループ
- ・渋谷スクランブルスクエア株式会社
- ・デロイト トーマツ グループ
- ・パナソニック株式会社
- ・株式会社ビーン
- ・フェイスブック ジャパン株式会社
- ・gooddo株式会社
- ・Google LLC
- ・HI(NY)
- ・PwCコンサルティング合同会社
- ・1% for the Planet

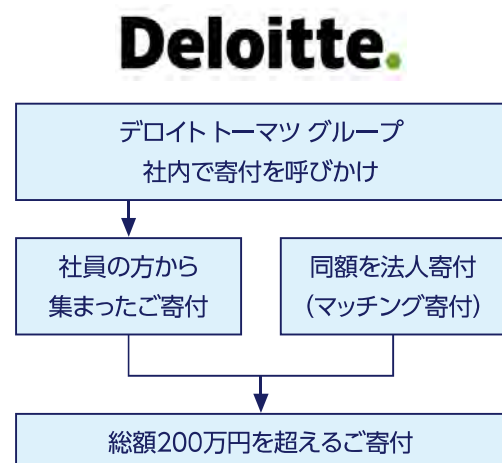
〈 過去ご支援方法・事例 〉

デロイト トーマツ グループ様

社内での寄付の呼びかけとマッチング寄付により
大きなインパクトを実現

デロイト トーマツ グループ様では、12月の寄付月間に社員の方に寄付を呼びかけ、集まった寄付と同額を法人としてマッチング寄付する企画を行っていらっしゃいます。

2021年は寄付先の6団体のうちの一つにフェアトレード・ラベル・ジャパンを含めていただき、同社の社員の方向けにオンラインで活動紹介をさせていただき等も含め、社内での寄付の呼びかけをご一緒させていただきました。その結果、216人の社員・職員の方からご寄付をいただき、法人としてのマッチング寄付とあわせて合計239.4万円ものご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。



寄付サポーターの募集



ご寄付は
こちらから



貧困がなくなり、
生産者が持続可能な生活を実現し、
自ら未来を切り開いていける
世界を目指して。



フェアトレード・ラベル・ジャパンの活動を応援いただき、
一緒にビジョン達成を目指してくださる
寄付サポーターを募集中です。

- ご寄付は、教材や広報物制作・イベントの開催など、主にフェアトレード普及啓発に使わせていただきます。より多く子ども達や大人にフェアトレードを知っていただくことで、フェアトレードの市場が広がり、多くの生産者や自然環境にインパクトをもたらすことが出来ます。
- 寄付サポーターの方にはフェアトレードに関する最新情報やイベントなどのお知らせをお送りさせていただきます。
- 当法人へのご寄付は、税制上の寄付金控除の対象になります。

◆ 主なご寄付のラインナップ (クレジットカード又は銀行振込)

個人 都度寄付プラン

3,000円 5,000円 10,000円
50,000円 100,000円

個人 継続寄付プラン

500円/月 1,000円/月 3,000円/月
3,000円/年 5,000円/年

法人 寄付プラン

[写真] カリブ海のウィンドワード諸島のバナナ農園の子ども達





(C)Ranita Roy



Annual Report 2022 (2023年8月発行)

認定NPO法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11-6英守東京ビルディング3階